

書 評

元木 靖著『中国変容論－食の基盤と環境』
海青社, 2013年発行, A5版, 360ページ,
ISBN-10: 4860992954, ISBN-13: 978-4860992958,
3800円+税.

1978年からの経済改革を機に中国の経済・社会の発展は著しく、わが国でも様々な分野で常に高い関心が中国の動向に注がれている。本書の目的は1985年から2011年に至る広範な現地調査をもとに、急激な変化をとげている「変容する中国像を実証研究」(著者表記, 以下同じ)することにある。この変容は「中国の農業の過去および今日の流れ」を考察することに主眼がおかれ、水、土地、食糧、環境の四つのキーワードを柱に本書はIV編で構成されている。以下それぞれの内容を紹介してみたい。

第I編の水では長江流域を対象に古代都市の成立を河川と関連した水利システムの変化に着目し、上流部では成都平原の三星堆文化、中流部では湖南省の大溪文化を、下流部では長江デルタ地域の良渚文化の変遷が取り上げられている。いずれも稲作を基本とした生産基盤に関連する農業水利体系や水利技術、さらには低湿地の地形条件を背景とした池沼群やクリークシステムの発展と再編の歴史の変容がきわめて説得的に展開されている。

第II編の土地では農地としての土地資源に焦点がおかれ国際比較をもとに農民1人当たりの耕地の零細化と共に、人口の急増で生産基盤となる農地の減少が省単位の分析で示されている。しかも農地保全のための土地管理策も都市化の進展で効果的には機能していないことがあげられている。しかもこの傾向は1990年以降には都市域の拡大が急速に進んだ東部地区で著しいことも示されている。

第III編の食糧では人口増加に対応した農業の多様な構造調整政策と食料消費や食料需給の変化、さらには「北糧南調」という生産地域のシフトが生じたことが明らかにされている。新たに食料生産地域の中心となった東北3省での水稲作の北進が典型的な事例として示されているほか、吉林と黒龍江の両省ではトウモロコシ栽培が卓越するようになり、水稲は吉林省では中部や西部に、黒龍江省では東部から中西部での拡大が明らかにされている。なお北進は長江デルタとの対比で例示されているが、このパターンは日本の高度成長期における稲作との類似性も指摘されている。

第IV編の環境では巨大化する都市経済の負の事例としての長江デルタの水環境問題、とりわけ農漁業に起因する「面源汚染」と工業化の進展との関連が指摘されている。一方乾燥地域の新疆ウイグル自治区のオアシスでは地下水に依存した限界地での水稲栽培の地域

分化や、既存の牧畜地帯では草原破壊の実態が明らかにされている。さらに雲南省南部山岳地の貧困地帯とされる少数民族居住地では棚田を中心とした農耕社会の持続性が課題となっている。

このように本書の内容は農業を軸に多岐にわたり、かつ分析の視点も中国にふさわしく時間的にも空間的にもそのスケールは大きなもので、これまでの類書にはない特色をもっている。中国での土地利用調査で限られた経験をもつ評者にも本書から次のような大きな示唆が得られた。

一つには中国農業の変化を相対化できる視点が得られたことである。調査では目前の土地利用や農業景観は個々の現象として把握が可能であるとしても、それらがいかなる意味をもち、かつ中国の農業生産の変化のなかにどう位置づけられるかという理解を得るのは困難なことが多い。しかしながら本書には著者の中国農業・農村への該博な知見に支えられて、土地利用と農業景観の成立の意味や変化の理解が可能となる視点が示されている。これにより現象や景観の意義を相対化する見方を獲得することができる。

二つには上でもふれたように調査地は中国全土をほぼカバーし、その期間も1985年からの四半紀に及んでいる。しかもその間に「変容」を把握するために調査は複数回にわたり行われていることである。また第I編の水利技術の変遷などに示されるように、渉猟した文献や資料は多岐にわたっている。なかでも特筆されるのが統計単位で、長江デルタや東北3省などでは鎮や市区単位の分析も多用されており、小地域にわたる「変容」の差異が詳細に示されている。また長江デルタの地形や湖沼の分布にはほとんど目にするのできない地形図も活用されている。これら小地域に関わる統計資料等の発掘と活用は著者の不断の努力に加えて、長年の調査で培われた中国側カウンターパートとの信頼関係により可能となったことも大きいと推察される。この点で本書は資料の所在や閲覧で困難を伴うことが多い中国調査への教示を示すものとなっている。

三つには本書の中心テーマである「変容」の担い手に関り、新たな格差の存在が明らかにされていることである。すなわち一連の開発ブームの影響を受けた上海デルタをはじめ東部沿海地域とその他の農村地域の間のみならず、縁辺地の遊牧地帯や山間の少数民族居住地の間でも生じている。このように経済改革に起因する「変容」がこれからどのように推移するかは中国にとっても大きな課題であろう。この点で本書は今後の中国農業の地域的変化を考察する際の起点となる役割をも担っており、大きな意義をもつといえる。

(山下 克彦)